

第5回 常呂川減災対策協議会 議事要旨

日 時：令和元年6月21日（金） 13：30～15：40

会 場：訓子府町公民館 1F多目的ホール

出席者：北見市副市長、訓子府町長、置戸町副町長、オホーツク総合振興局副局長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第6普通科連隊業務隊長、北海道警察北見方面本部警備課長、北見警察署長、北見地区消防組合消防長、網走開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯と取組方針等
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 令和元年度以降の取組内容
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール（案）

【事務局からの説明を踏まえ、各関係機関からの意見】

《鹿ノ子ダムの異常洪水時防災操作と避難の重要性》

(北見市)

- ・常呂川下流域の常呂町は、浸水しやすい地域で、地元住民も鹿ノ子ダムの放流には関心があるため、正しい情報を受け取り、いち早く対応していきたい。

(訓子府町)

- ・ダム放流の情報提供は、網走開発建設部長からなのか、北見河川事務所長からなのか、どちらから連絡をもらえるのか。

(開発局)

- ・状況による。操作する場合は直ぐに連絡する。

(訓子府町)

- ・普段は川の水位計を見て状況判断をしているが、ダムの放流と水位計の関連性がわかりにくい。
- ・ダムからの放流により自分の町にどのような被害を受けるのかイメージが湧かないので、具体的にイメージ出来るようなものが必要と思う。

(開発局)

- ・網走開建としても異常洪水時防災操作を行う場合には、金山ダムの事例と同様に、リエゾンやホットラインにより、しっかりと情報提供できる体制をとりたい。また、それを実施するためのプログラムをこの協議会の中で構築していきたい。

(訓子府町)

- ・ダムの放流となると異常な状況なので、我々の想像した以上のものを考えなければならない。

- ・リエゾンが開発局の職員なのか。
- ・鹿ノ子ダムで異常洪水時防災操作が想定される場合に派遣されるリエゾンの規模は、どの程度の人数になるのか。

(開発局)

- ・リエゾンは開発局の職員である。
- ・派遣される人数は通常2人体制。

(訓子府町)

- ・減災の取組が始まって4年目になるので、市町村の枠を越えた訓練等が必要ではないか。

(置戸町)

- ・置戸町は鹿ノ子ダムを控える町という認識。
- ・平成28年の出水の際、あそこまで高くなったダムの貯水位は初めて見た。
- ・鹿ノ子ダムの浸水想定区域図の検討は住民にとっても興味深いものと考えてるので、早期の整備を期待する。
- ・訓子府川が越水することもあるため、道管理河川との情報共有は必要。
- ・また常呂川の置戸町から鹿ノ子ダムまでの間の河畔林について、降雨により倒木として流出してくることもあるため、日常的に河畔林を整備していくことで、出水時に水の流れを遮らないことが安全対策上必要だと認識している
- ・不測の事態の想定は早いうちに共有したい。

(北見地区消防組合)

- ・例えば日吉地区で決壊すると、常呂地区が孤立してしまい、常呂で勤務する職員も限られているため、応援のために派遣させる場合は能取回りで常呂地区入りすることになる。消防団員の要請にも時間がかかるため情報は早ければ早いほど助かる。
- ・一般市民には、ダムの異常洪水時防災操作についても広報する必要がある。

(北見警察署)

- ・関係機関と連携を深めながら、人命第一に避難等の措置をとっていきたい。
- ・情報の受け手である市民は、身に危険の迫った状況でなければ行動しないと感じる。
- ・情報はいかに早く提供するかが大事であるが、その中でも時間帯等のタイミングを考慮することで避難行動に移ることができるのではないか。

(北海道警察北見方面本部)

- ・避難指示を受ける住民の認識が大事であるが、自分の身に危険が及んでいなければ行動してもらえないという実態がある。ことの重大さをいかに広報して知らせ、平素から住民に認識を持ってもらえるような取組みが必要である。
- ・本日の会議で知ることができたダムの異常洪水時防災操作について、職場内で共有したい。また、住民の方も知らない部分が多いと思うので地域で実施する防災教育等が重要であると感じる。防災教育を受けた子どもから家族に伝わったりすることで、町全体に防災意識が広がると思うので、そういった地域での取組みに警察も参加していきたい。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・ダムの放流により川の水位がどれだけ上がるのか今後教えて頂ければ参考になる。

(網走地方气象台)

- ・1時間に50mmや80mmの雨のイメージを知っている人はほとんどいない。
1時間に50mmの雨は、経験では職場の窓が一瞬できれいになったという話がある。
1時間に80mmの雨が六畳間に降ると、一般家庭の風呂の浴槽の3杯分の水量が降ったことになる。
- ・近年、このような極端な雨が増えており、当管内でも起こりうることである。鹿ノ子ダムが異常洪水時防災操作を行う状況になる時は、既に相当な雨が降っており、広い範囲で水害が発生していると考えられ、气象台はその前に警報や情報を発表するので、タイミング等加味して早めの防災対応が必要である。

(北海道オホーツク総合振興局)

- ・ダムの貯水能力、異常洪水時防災操作について、住民に分かりやすく周知し理解してもらうことが重要。

《その他 意見交換》

(北見市)

- ・平成30年度から令和2年度までの3カ年において、国で30、道で15の危機管理型水位計を設置すると聞いているが、その水位データをどのように有効利用するのか。
- ・北見市の要配慮者施設は100を越える。避難訓練が義務化される中で利用者の負担が大きくなる。利用者の負担を軽減しつつ、実効性の高い訓練をするための助言をいただきたい。

(開発局)

- ・危機管理型水位計の水位データは、防災担当者や一般市民が利用できるようにインターネットで公開している。危機管理型水位計の水位データの見方等については、参考資料を参考にして頂きたい。

(訓子府町)

- ・この4年間で備蓄品整備、訓練の実施、水防災マニュアルや防災マップの見直し等、取り組みは前進してきたと感じている。また地域では自主防災組織も立ち上がっており、訓練活動も行われている。
- ・訓子府町に採用される男性職員は、消防団に入ることを義務化しており、そのことで役場職員が住民と日常的に連携する体制ができています。あとは住民に現実のものとしてイメージできるような広報活動をしていくことが最大の鍵になる。

(置戸町)

- ・どこまでやっても十分ということはないが、防災資機材の整備を進めることができた。
- ・住民に周知するための防災行政無線は、聞こえづらいという意見があるため改善していきたい。
- ・大小あるが町内各地域で自主防災組織の活動が進んできており、今年度は6月29日に境野地区での訓練を予定している。
- ・置戸中学校で中学生と地域住民にも声かけをして1日防災学校を実施している。

- ・ 中学校の修学旅行では東北地方の被災地へ行き、被災地の状況を肌で感じてもらい、その学習成果を学校で発表する際に地域の方にも還元する取組をしている。

(北見地区消防組合)

- ・ 水防に係る訓練は消防職団員も年間を通じて実施しているが、今後避難のあり方を含めた訓練を実施していきたい。

(北見警察署)

- ・ これまでも広報活動により住民の意識高揚に努めてきたが、今後も引き続き実施したい。
- ・ 住民の意識高揚も重要であるが、まずは職員自ら危機意識持つことや、避難誘導の手法を習得することが必要であるため、今後も各種訓練等に参加していきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・ 気象台職員の方から講義を受け、職員教育を行っている。
- ・ 救出や救助に必要な技能習得を目的とした訓練を実施しているが、今後は住民の方がいち早く避難していただけるような活動も実施していきたい。

(陸上自衛隊第6普通科連隊)

- ・ 今後も訓練等に参加していく。

(網走地方気象台)

- ・ 引き続き防災知識の普及を進めていきたい。
- ・ 今年、網走到気象台ができて130年になることを記念して、「防災落語」を作成した。地域のお年寄りに防災に興味を持ってもらうため、「土砂災害・洪水害・浸水害」の3つのテーマで職員が作成し、職員が落語をするものである。6月29日に置戸町でやらせていただく予定である。
- ・ 気象台としては、生活の中の防災、暮らしの中の防災を普及・啓発していきたい。

(北海道オホーツク総合振興局)

- ・ 堤防天端舗装、危機管理型水位計設置、簡易型のカメラ整備を実施しているが、これらのハード対策が、万能ではないことを住民に理解してもらえるよう、伝え方を工夫していきたい。

以上